

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人札幌恵友会		
事業所名	グループホーム茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334 (電話) 011-775-0505		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	4月	23日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	14人,	非常勤 4人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,500 円	その他の経費(月額)	光熱費 (4-9月)300円 (10-3月)400円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	280 円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (5月 1日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名	
要介護1	2	要介護2	3			
要介護3	4	要介護4	4			
要介護5	3	要支援2				
年齢	平均	87.1歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院、健生会篠路山田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の自然豊かな広大な敷地に立地する。病院や同一法人のグループホームをはじめ各種の高齢者施設が群居している中のひとつで、管理、運営、職員教育などの面で大規模法人の強みを活かしながら、個別施設ごとの特色ある運営が行われている。建物はログハウス風の温かみのある内・外装で、いずれの空間も広々としたスペースがとっており、採光が豊かで明るい雰囲気になっている。近隣小学校との付き合いや、施設行事への住民招待、運営推進会議の定例開催など、地域とのつながりには熱心に取り組んでいる。管理者は豊かな経験と高い専門性を備え、職員は明るく、利用者の表情も明るく穏やかである。家族からは厚い好意と感謝の念が寄せられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム独自の理念として4つの緩和を掲げた。わかりにくいとされた、道路からの入り口、玄関からの各ユニットの入り口には表示を設けた。生活歴や心身の状態を把握し、生活に即した役割や生きがいに生かす工夫が不十分とされたが、現在は問題なく改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員に用紙を配り、記入させた上で、会議で話し合い、管理者がまとめた。職員により理解に差はあるものの、各自なりに日ごろの業務を振り返り、レベルアップを図る好機と受け止め、活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	営推進会議は不定期ながら3~4ヶ月ごとに開催されている。討議内容はホームの活動内容が中心になっているが、ホームの意義や実態を地域の人々に知ってもらうことにより町内会、老人会をはじめ、地域とのつながりを深める導入窓口となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置および法人内に第三者による苦情受付機関を設けて対処している。苦情があった場合の受付、処理のマニュアルもチャートとして整備されている。家族との日常接触の中で得られた意見、希望などは連絡ノートに記載して共有をはかると共に、会議で対応を検討して、改善に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校とは親密な付き合いがあって、児童が来訪して学校行事に誘ったり、手紙をくれたりするほか、利用者が行事に参加して交流している。地域住民との関係は運営推進会議のほか、町内会の行事に参加し、ホームの行事に住民を招くなどして強化に努めている。現在、老人会への参加の話が進行中である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設理念として、家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する、という基本方針を掲げているほか、生きがい、安心と笑顔で、仲良くなど、4つのホーム目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は施設内の随所に掲げられ、日ごろ目にできるように配慮されているほか、カードにプリントしたものを職員が常時携行して、内容は良く意識され、理解が浸透している。会議でも必要に応じて取り上げられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校とは親密な付き合いがあって、児童が来訪して学校行事に誘ったり、手紙をくれたりするほか、利用者が行事に参加して交流している。町内会の行事に参加し、ホームの行事に住民を招いている。現在、老人会への参加の話が進行中である。	○	現在、老人会への参加を交渉中、とのことなので、その実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員に用紙を配り、記入させた上で、会議で話し合い、管理者がまとめた。職員により理解に差はあるものの、各自なりに日ごろの業務を振り返り、レベルアップを図る好機と受け止め、活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は不定期ながら3~4ヶ月ごとに開催されている。討議内容はホームの活動内容が中心になっているが、ホームの意義や実態を地域の人々に知ってもらうことによって町内会、老人会をはじめ、地域とのつながりを深める導入窓口となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは管理者連絡会で会うくらいで、事務的な手続きで訪問するほかに行き来はない。	○	積極的に区役所、市役所を訪問し、ホームのサービスの質の向上のために各種の行政サービスを掘り起こして活用することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は週に数回から1~2ヶ月に1回の割で来訪するので、その折に利用者の状況を詳しく伝えている。緊急時や必要が生じた折には電話や手紙でも報告している。預かり金の出納帳は毎月送っている。	○	ホーム全体の状況や利用者の状況を定期的に知らせるための「ホーム便り」の発行を検討するよう、期待したい。また、職員の異動について、家族への報告は徹底するよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置および法人内に第三者による苦情受付機関を設けて対処している。家族との日常接触の中で得られた意見、希望などは連絡ノートに記載して共有をはかると共に、会議で対応を検討して、改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない事情のある場合以外、職員の異動はなく、利用者・家族にとっての馴染みの関係は維持されている。職員の離職があった場合、利用者の理解度や精神状態に応じて説明し、あるいは伏せるなどの対応をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には先輩職員がつききりで指導する。法人内の研修会が年に8回程度実施されており、外部研修の案内と併せて職員に参加を勧めている。受講の際は勤務扱いとし、参加費、交通費は会社から支給されている。	○	研修受講は本人の希望任せとせず、会社として計画的な受講となるよう、検討を期待したい。また、業務中の教育（OJT）を充実させたいとのことなので、それを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では意見交換会や職員交流研修を行っているが、外部の同業者とは研修会を通じての交流に止まっている。	○	法人内の他施設との交流を拡大すると共に、外部施設との交流の機会も持つよう、また一般職員レベルでの交流もできるよう、取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学などで納得した上での利用開始を勧めてはいるが、本人の理解度の事情などにより、家族のみの判断で入居になるケースも多い。入居の当初は孤立することのないよう気を配り、接触を多くし、以前の生活のパターンを把握してそれに合わせるなどにより、馴染みの形成に努力している。	○	入居前の馴染みのために仮利用、食事や入浴などの体験、入居後も自宅（家族宅）との行き来ができるような工夫などを考慮しているとのことなので、その実現を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員が利用者を人生の大先輩として尊敬する気持を大切にしている。生活を共にすることで利用者の思いを感じ取れるよう努力しており、それにより多くを学んでいる。日々の生活の中で仕事を手伝ってもらうなどで、利用者「役に立っている」という思いを持ってもらえるよう、心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、普段の行動の注意深い観察の中から把握している。いつもとちょっと違う様子、真意を表していないような言葉が見られた時は、その理由を考え、真意を推し量るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が、家族の意見や希望を聞き、職員間でモニタリングし、法人のアセスメントツールに基づいてアセスメントし、センター方式も参考にしながら介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族と可能な利用者に説明をして意見を聞き、変更の要望があれば見直しをして確認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っている。入退院などにより利用者の状態が変化した時は、随時モニタリングし、見直しを行い、現状に応じた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への通院介助は、可能な限り職員が行っている。医療連携体制を取っているため、入院回避で、軽度な医療処置を行う事ができるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時医療連携を確保し、2週間に1回内科・精神科医の往診と、週1回の訪問看護を行っている。かかりつけ医への受診時には、日常の様子や、家族の考え方を報告したり、受診結果を家族に報告し、往診や受診により必要な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に説明をして同意を得ている。指針作成以前に入居した利用者に対しても、新たに指針を説明して同意を得ている。利用者の体調により、随時、家族の意向を確認する話し合いの場を持つようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉がけは、「です、ます」調を基本に、本人の理解できる言葉に置き換えたり、方言で話したりと、その人に合った言葉がけをして誇りやプライバシーを損ねないようにしている。個人情報、鍵付きの保管場所に保管をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は決められているが、高齢等により起床時間が合わない時は、無理に起こしたりすることなく、利用者のペースで食事などができるように配慮している。受診や入浴日以外は、利用者それぞれのペースで個人の時間が過ごせるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力に応じ、野菜を切ったり、皮を剥いたり、簡単な盛りつけや味見などをしてもらっている。献立は、利用者の希望なども取り入れながら職員が交代で作成している。食事は、職員も共にテーブルを囲み、楽しく食べられるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金の午後を入浴日として、一人週2回入浴できるようにしているが、利用者の体調や状況により、午前入浴も行っている。入浴拒否者に対しては、時間や曜日を変えたり、清拭を行い常に清潔を保てるように配慮している。個人入浴を基本としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本や、歌詞本を準備して、読書や歌などの趣味を楽しむことができるように配慮している。畑仕事の好きな利用者に対しては、専用の畑を準備して張り合いのある生活ができるようにしている。職員は、ゲームなどを考えて楽しい時間を過ごせるような工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい季節は、月1回外出に出かけたり、百合が原公園、お花見、ドライブなどに出かけている。独歩可能な利用者は、中庭やウッドデッキ、畑など自由に散策して過ごせるように配慮している。	○	冬季の外出が、あまり行われていないので、定期的に冬季も外出できるような工夫を期待したい。近くの遊歩道を利用して、敷地外の散歩を行う意向なので、その実現を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけることなく玄関は開放している。玄関にチャイムはつけていないが、常に利用者の行動に注意し、外出しようとした時は職員も一緒に外出し、満足感が得られるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアルや職員の連絡網を作成し、年2回の避難訓練を行っている。入職時には、災害時の対応の説明を行い、マニュアルを配布している。近くの関連施設と、災害時の協力体制を整えている。	○	関連施設との協力体制に加え、地域との連携を深めて行きたい意向なので、地域との協力体制作りを期待したい。地震の際のマニュアルも作成する意向なので、その実現を期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は毎日アセスメントシートに記入し把握している。摂取量が充分でない場合は、本人の好みの物で補食したり、時間を置いて提供したりして、必要量が確保できるように配慮している。	○	献立は職員が作成しているので、定期的に管理栄養士に献立チェックをして貰うように期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広い窓と天窓があり、日当たりや見晴らしが良く、利用者が落ち着いて気持ちよく過ごせるようになっている。利用者と職員が作成した手作りカレンダーやちぎり絵、季節感のあるものが飾られている。広い廊下には、椅子とテーブルが置いてあり、自由にゆっくり過ごせるような配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、トイレ、洗面所、ベット、ダンス、テレビ台などが備え付けられている。居室の入り口には手作りの表札がかけられ、室内には仏壇や人形、写真など馴染みの物が置かれ、利用者が自宅と同じように落ち着いて過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。